

2 尾張北東部地区

（ 瀬戸市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町、大口町、扶桑町 ）

【地区の概況】

尾張北東部地区は名古屋市の北東部に位置しており、地区北部では、高度成長期以降、ニュータウン開発などにより、名古屋市に近接するベッドタウンとして発展してきました。また、1970年代頃から、名古屋市と豊田市の間に位置する日進市、長久手市など地区東部で子育て世代を中心に人口の流入が続き、緑豊かで良好な居住地域が形成されています。

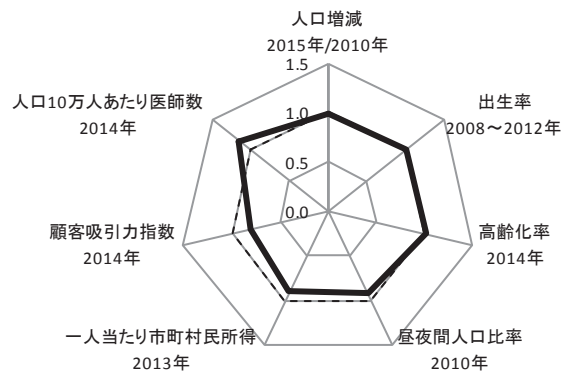
また、陶磁器などの地場産業から、工作機械や次世代産業の柱として期待される航空宇宙産業まで、幅広い産業が集積しています。

一方、国宝犬山城をはじめとした歴史遺産や町並みを有するほか、名古屋市近郊にあって、豊かな自然環境を有し、愛・地球博記念公園など文化・レクリエーション施設も立地しています。また、多くの大学や官民の研究機関が集積するなど、本県を代表する学術研究開発ゾーンとなっています。

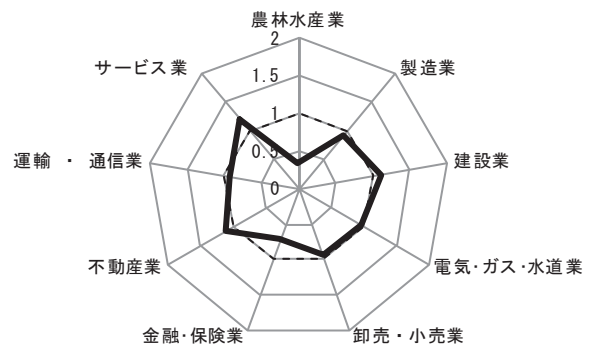


- 人口 1,200,998人 (16.0%)
- 面積 526.10k㎡ (10.2%)
- 人口密度 2,282.8人/㎡

※人口は2015年10月現在、面積は2014年10月現在、
（ ）内は県内シェア



＜域内総生産構成比の全県との比較＞



（ 全県データ（点線）を1として、
この地区の指数を実線で図示 ）

1 人口

尾張北東部地区の2015年の人口は1,200,998人（2010年比100.7%）、県内シェアは16.0%となっています。

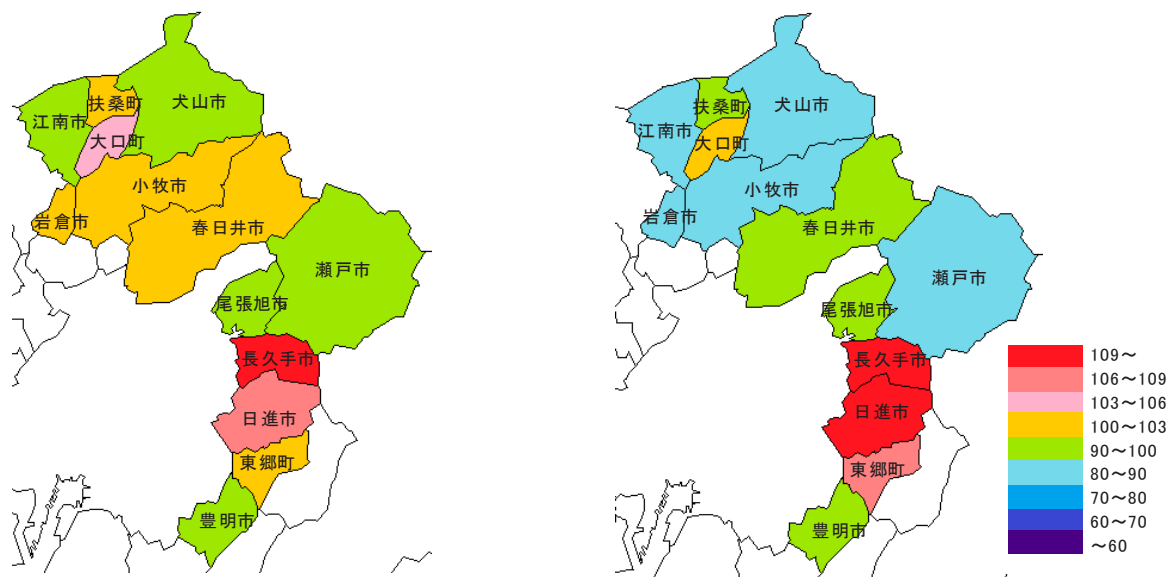
市町別に見ると、名古屋市と豊田市をはじめとした西三河地区との間に位置するベッドタウンとして開発が進む長久手市（2010年比110.7%）、日進市（同年比104.5%）、東郷町（同年比102.4%）では、若い世代の転入が多く、人口増加率が高くなっています。一方で、瀬戸市（同年比97.7%）、江南市（同年比98.6%）などでは、人口が減少しています。

また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の地区内の人口は1,118,101人（2010年比93.8%）に減少すると見込まれています。減少率が高いのは、瀬戸市（同年比82.5%）、岩倉市（同年比82.8%）、江南市（同年比84.5%）などとなっています。また、高齢化率は、2010年比で+11.9ポイントの上昇と、県平均（+12.2ポイント）より低いものの、尾張旭市（2010年比+14.3ポイント）、岩倉市（同年比+13.8ポイント）などで大きな上昇が見込まれています。

■総人口の推移

◇2015年（2010年を100とした比較）

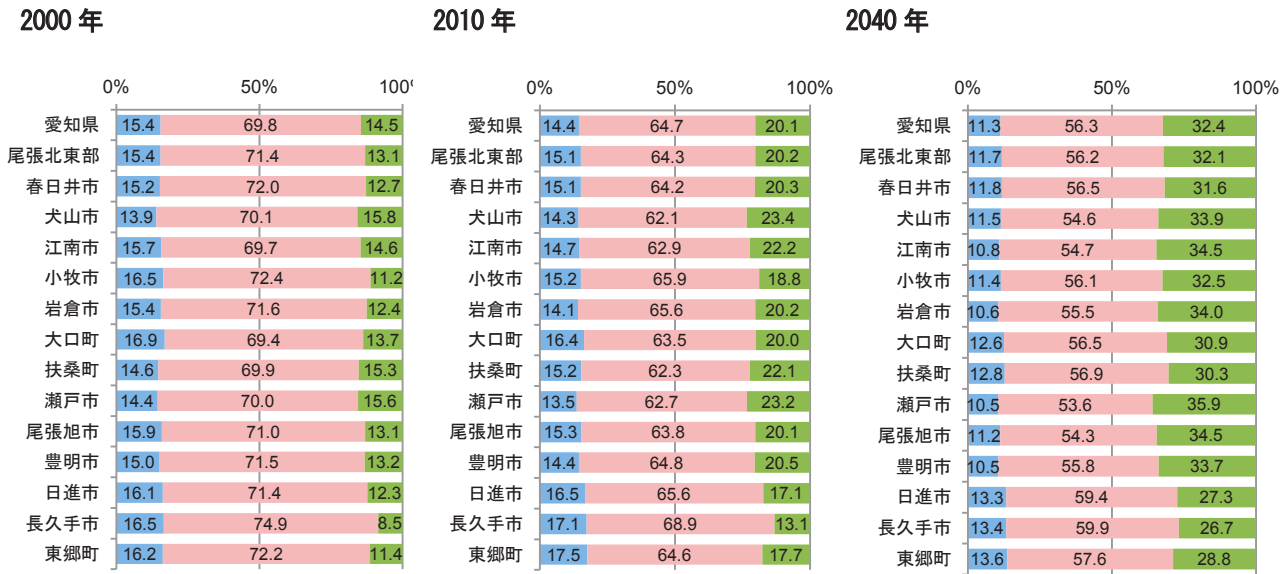
◇2040年（2010年を100とした比較）



| | 総人口（人） | | | | | 増減率 | |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|-------------|
| | 2000年 | 2005年 | 2010年 | 2015年 | 2040年 | 2010年→2015年 | 2010年→2040年 |
| 愛知県 | 7,043,300 | 7,254,704 | 7,410,719 | 7,484,094 | 6,855,632 | 101.0% | 92.5% |
| 尾張北東部 | 1,124,101 | 1,161,468 | 1,192,192 | 1,200,998 | 1,118,101 | 100.7% | 93.8% |
| 春日井市 | 287,623 | 295,802 | 305,569 | 306,599 | 290,647 | 100.3% | 95.1% |
| 犬山市 | 72,583 | 74,294 | 75,198 | 74,319 | 66,000 | 98.8% | 87.8% |
| 江南市 | 97,923 | 99,055 | 99,730 | 98,359 | 84,232 | 98.6% | 84.5% |
| 小牧市 | 143,122 | 147,182 | 147,132 | 149,540 | 126,477 | 101.6% | 86.0% |
| 岩倉市 | 46,906 | 47,926 | 47,340 | 47,563 | 39,183 | 100.5% | 82.8% |
| 大口町 | 20,633 | 21,602 | 22,446 | 23,279 | 22,804 | 103.7% | 101.6% |
| 扶桑町 | 31,728 | 32,535 | 33,558 | 33,808 | 31,994 | 100.7% | 95.3% |
| 瀬戸市 | 131,650 | 131,925 | 132,224 | 129,125 | 109,092 | 97.7% | 82.5% |
| 尾張旭市 | 75,066 | 78,394 | 81,140 | 80,812 | 77,053 | 99.6% | 95.0% |
| 豊明市 | 66,495 | 68,285 | 69,745 | 69,119 | 63,951 | 99.1% | 91.7% |
| 日進市 | 70,188 | 78,591 | 84,237 | 88,010 | 98,111 | 104.5% | 116.5% |
| 長久手市 | 43,306 | 46,493 | 52,022 | 57,593 | 63,553 | 110.7% | 122.2% |
| 東郷町 | 36,878 | 39,384 | 41,851 | 42,872 | 45,004 | 102.4% | 107.5% |

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

■年齢三区分別人口割合



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

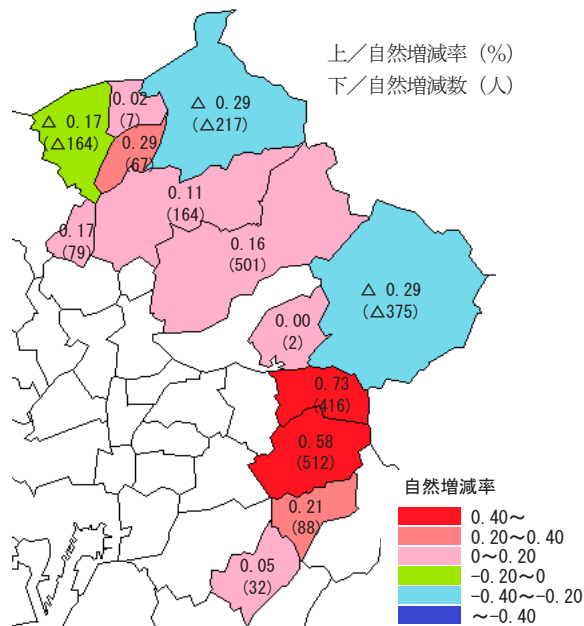
2 自然増減

尾張北東部地区の2014年の自然増減率*は0.09%の増加で、1,112人の自然増となっています。自然増減率を市町別に見ると、長久手市(0.73%)、日進市(0.58%)などでプラスが大きくなっている一方、瀬戸市(-0.29%)、犬山市(-0.29%)などでマイナスとなっています。

また、合計特殊出生率(2008年～2012年)を市町別に見ると、大口町(1.72)、日進市(1.69)などで高く、瀬戸市(1.30)、犬山市(1.41)、尾張旭市(1.41)などで低くなっています。

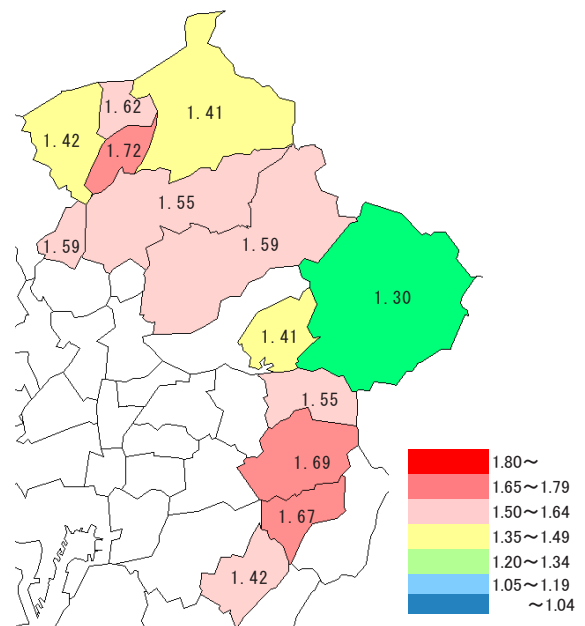
*自然増減率=自然増減数/総人口×100

■自然増減の状況(2014年)



出典：厚生労働省「人口動態統計」(2014年)、愛知県「あいちの人口」(2014年)から愛知県政策企画局作成

■合計特殊出生率(2008年～2012年)



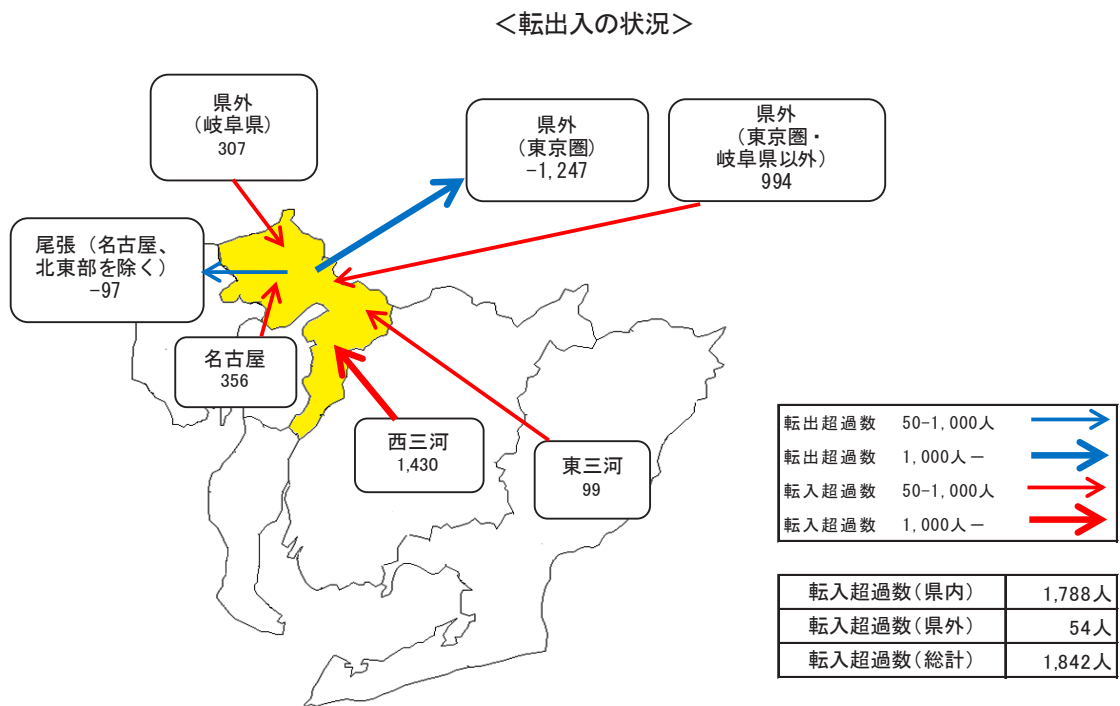
出典：厚生労働省「2008年～2012年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

3 転出入の状況

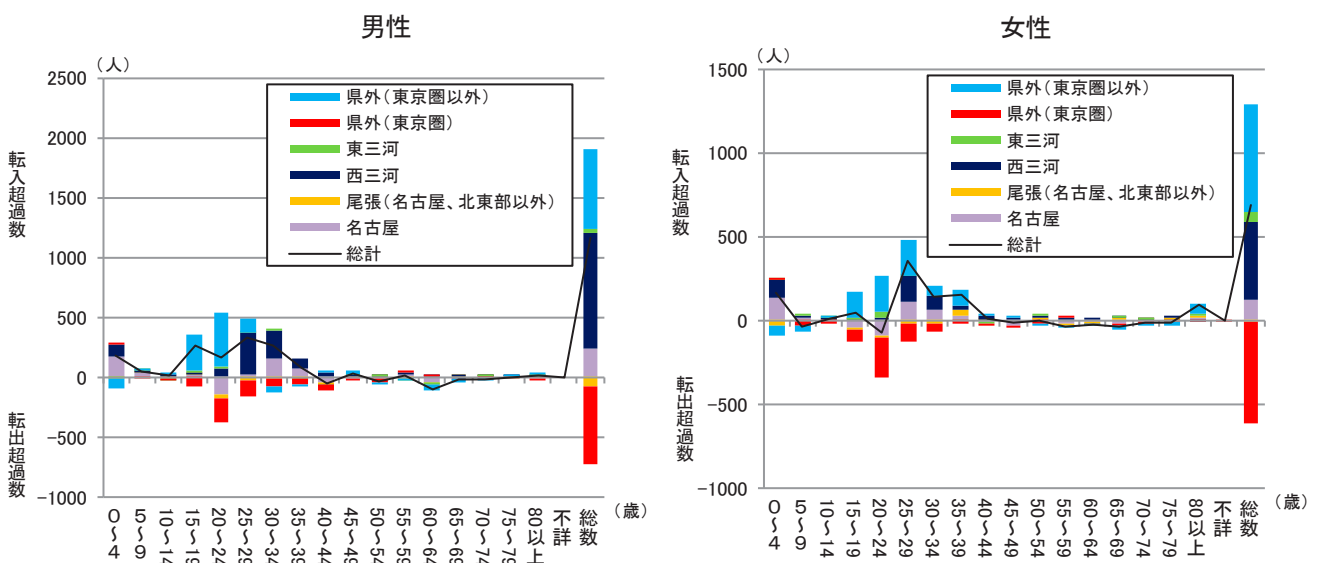
尾張北東部地区の2014年の転出入は、1,842人の転入超過となっています。西三河、名古屋、岐阜県などに対して転入超過となっている一方、東京圏などに対して転出超過となっています。

男女別に見ると、男性は15～39歳、女性は25～39歳で転入超過が大きくなっています。男性では、特に西三河地区からの転入が多くなっています。

■転出入の状況（2014年）



＜5歳階級別純移動数＞



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2014年）

4 昼夜間人口比率、就従比、通学比

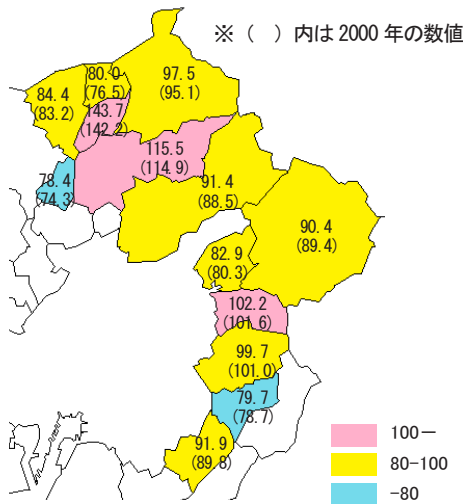
尾張北東部地区の2010年の昼夜間人口比率^{※1}は94.3（2000年比+1.8ポイント）、就従比^{※2}は0.87（同年比+0.03ポイント）、通学比^{※3}は1.09（同年比-0.01ポイント）となっており、通学面で求心力のある地区となっています。

市町別に見ると、昼夜間人口比率は、大口町（143.7）、小牧市（115.5）、長久手市（102.2）で100を超えています。就従比は、大口町（1.96）、小牧市（1.36）で高く、通学比は、日進市（2.37）、長久手市（2.07）などで高くなっています。

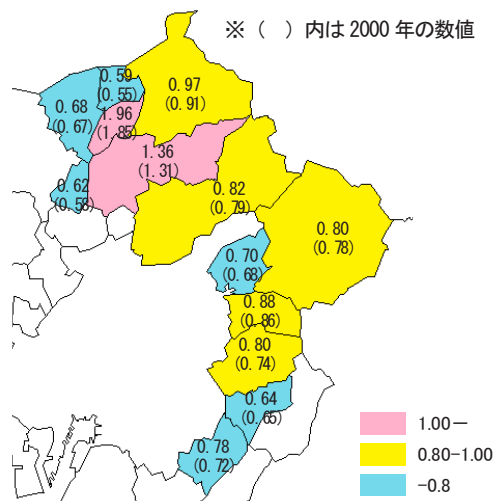
また、当地区は、通勤面で名古屋市への流出が大きく、地区全市町で名古屋市への通勤率が10%を超えており、長久手市、尾張旭市、日進市では3割を超えている状況です。一方、東郷町、日進市、長久手市では近接する豊田市へ、豊明市では隣接する刈谷市への通勤率も高くなっています。

※1 昼夜間人口比率＝昼間人口／夜間人口（常住人口）×100。100を下回ると、通勤・通学人口の流出超過を示します。
 ※2 就従比＝従業地就業者数／常住地就業者数。就従比が1を下回ると、就業者の他地域への流出を示します。
 ※3 通学比＝就学地通学者数／常住地通学者数。通学比が1を下回ると、通学者の他地域への流出を示します。

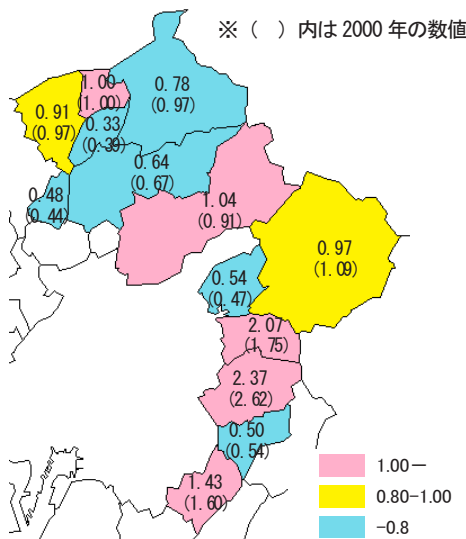
■昼夜間人口比率（2010年）



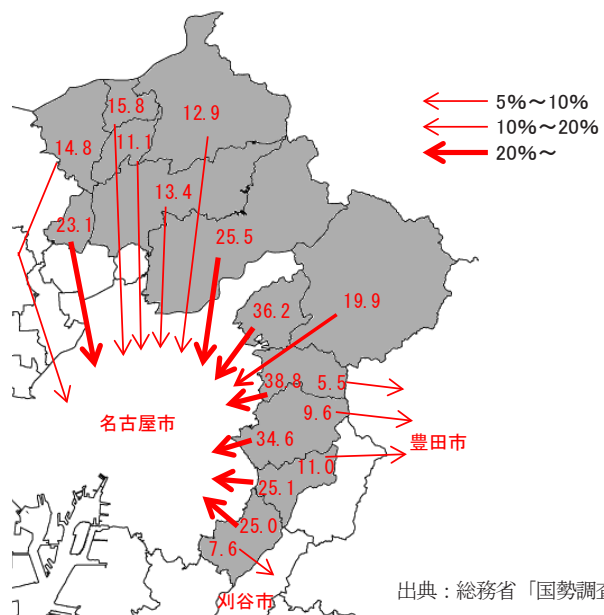
■就従比（2010年）



■通学比（2010年）



■名古屋市、豊田市、刈谷市への通勤率（2010年）



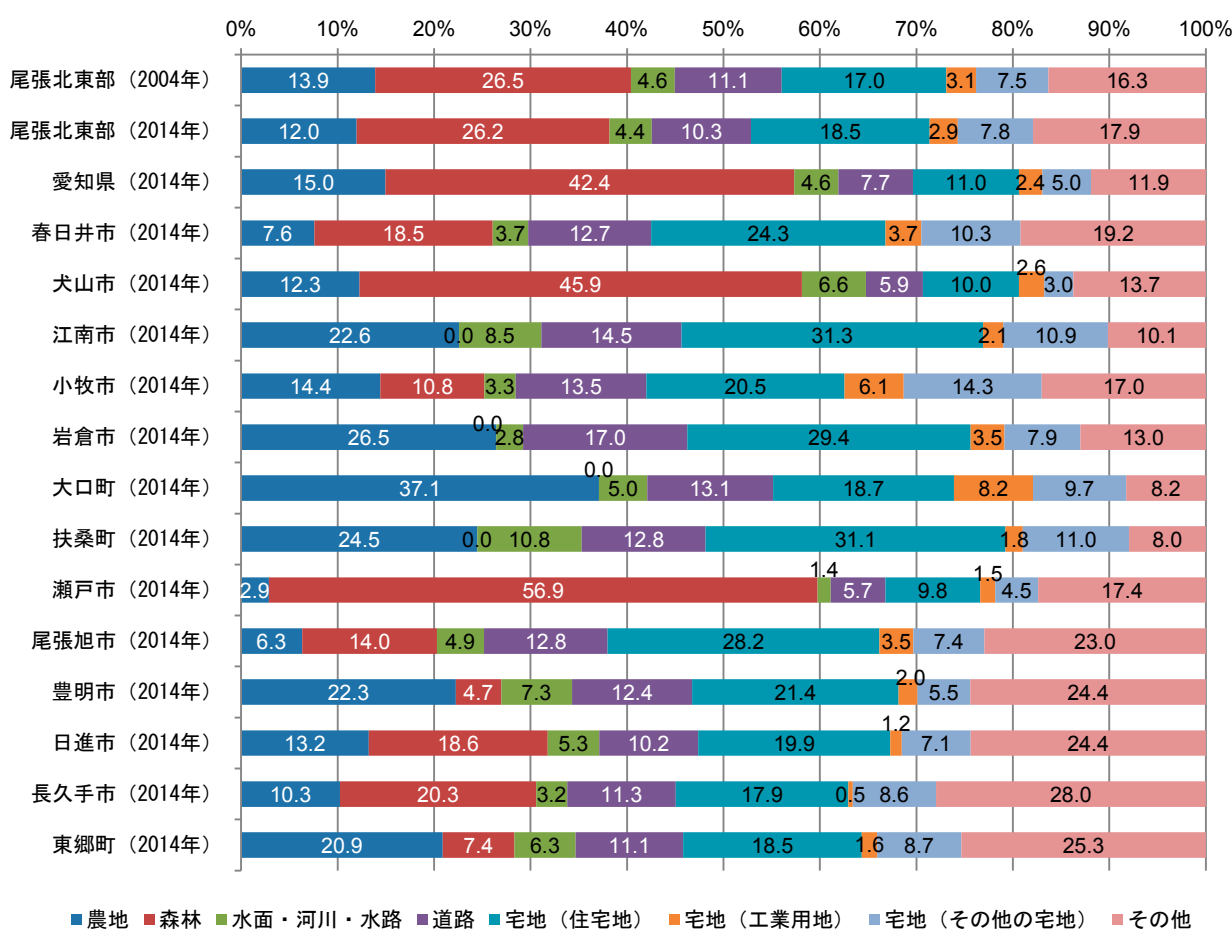
5 土地利用

尾張北東部地区の2014年の地目別土地利用状況を見ると、宅地29.2%、森林26.2%、農地12.0%などとなっています。宅地の内訳は、住宅地が18.5%、工業用地が2.9%、その他の宅地（商業・業務用地など）が7.8%となっています。

県全体と比較すると、住宅地（+7.6ポイント）、その他の宅地（+2.8ポイント）の割合が高くなっています。また、2004年と比較すると、農地の割合が減少（-1.9ポイント）する一方、住宅地の割合が増加（+1.5ポイント）しています。

市町別に見ると、江南市と扶桑町は、住宅地の割合がそれぞれ31.3%、31.1%と高くなっています。また、瀬戸市と犬山市は、森林の割合がそれぞれ56.9%、45.9%と高く、大口町は、農地の割合が37.1%と高くなっています。

■土地利用の現況



※端数処理の関係上、合計が100にならない場合がある。また、上記の説明と差引の数値が合わない場合がある。

出典：愛知県「土地に関する統計年報」

※宅地：住宅地、工業用地、その他の宅地の合計

6 産業

(1) 就業構造

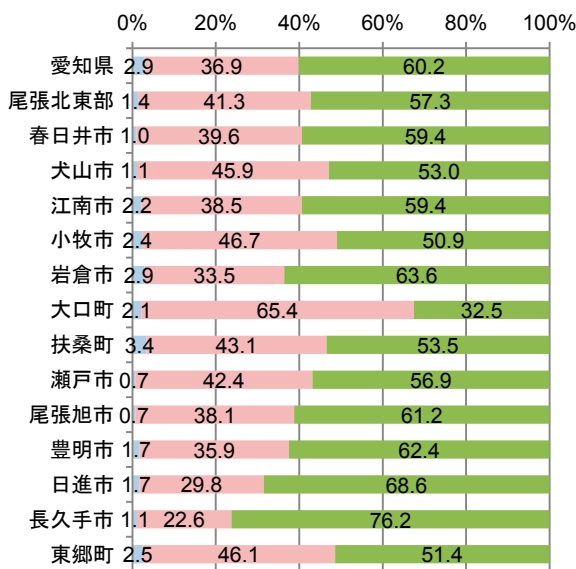
尾張北東部地区の2010年の就業構造を見ると、第1次産業従事者比率が1.1%（県：

2.3%)、第2次産業従事者比率が36.0%（県：33.3%）、第3次産業従事者比率が63.0%（県：64.4%）であり、県平均と概ね同様の就業構造を有しています。2000年と比較すると、第1次産業従事者比率（-0.3ポイント）、第2次産業従事者比率（-5.4ポイント）の割合が低下し、第3次産業従事者比率（+5.7ポイント）が増加しています。

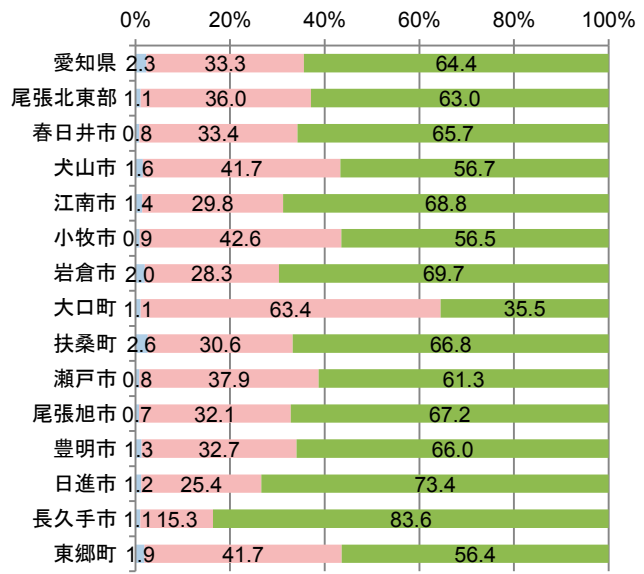
市町別に見ると、第2次産業従事者比率は、大口町（63.4%）、小牧市（42.6%）などで高くなっています。また、第3次産業従事者比率は、長久手市（83.6%）、日進市（73.4%）などで高くなっています。

■産業別従業者割合

2000年



2010年



■第1次産業比率 ■第2次産業比率 ■第3次産業比率

出典：総務省「国勢調査」

(2) 農林水産業

尾張北東部地区の2010年の農産物販売金額は81億円であり、県内シェアは3.0%となっています。農業部門別では、養鶏20億円、稲作15億円、花き・花木9億円などが多くなっています。各市町では、大消費地に近い地理的条件を生かした、多種多様な品目が生産されており、あいちの伝統野菜である守口だいこん（扶桑町）や、サボテン（春日井市）の栽培も行われています。

■農産物販売金額（2010年）

| 地域 | 販売金額 | 内訳（上位3位） | | | |
|-------|------|----------|------|-------|--------|
| | | 養鶏 | 稲作 | 花き・花木 | その他の作物 |
| 尾張北東部 | 80.9 | 19.5 | 14.6 | 9.1 | |
| 春日井市 | 12.2 | 5.0 | 2.0 | 1.3 | |
| 犬山市 | 5.8 | 2.1 | 2.0 | 0.6 | |
| 江南市 | 4.7 | 2.6 | 1.0 | 0.3 | |
| 小牧市 | 17.3 | 10.9 | 2.7 | 2.5 | |
| 岩倉市 | 2.8 | 0.8 | 0.7 | 0.7 | |
| 大口町 | 3.3 | 1.6 | 0.6 | 0.4 | |

| 地域 | 販売金額 | 内訳（上位3位） | | | |
|------|------|----------|------|------|----|
| | | 露地野菜 | 分類不能 | 施設野菜 | 酪農 |
| 扶桑町 | 3.1 | 2.5 | 0.3 | 0.2 | |
| 瀬戸市 | 9.0 | 4.8 | 2.3 | 1.0 | |
| 尾張旭市 | 0.4 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | |
| 豊明市 | 10.2 | 4.4 | 1.0 | 1.0 | |
| 日進市 | 5.9 | 3.0 | 2.2 | 0.4 | |
| 長久手市 | 3.7 | 2.0 | 0.6 | 0.6 | |
| 東郷町 | 2.5 | 1.3 | 0.4 | 0.3 | |

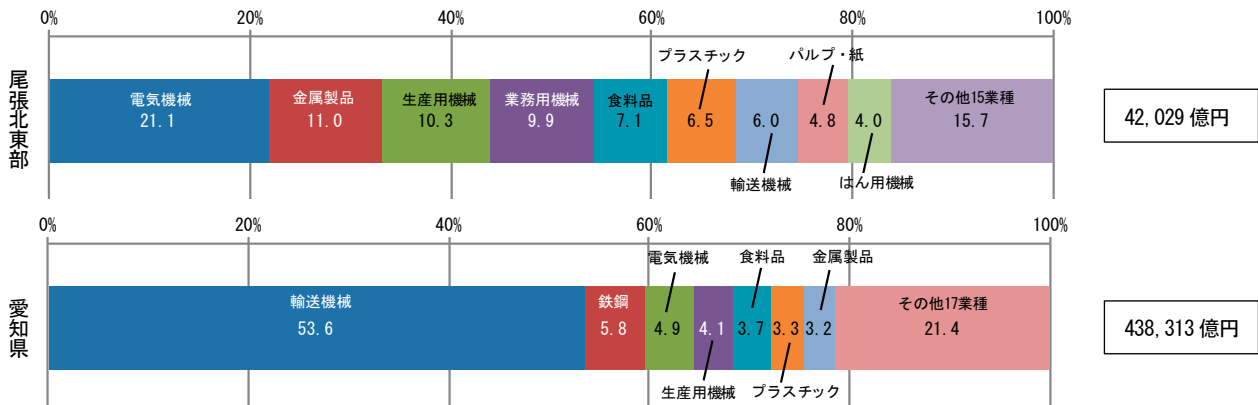
出典：地域経済分析システム（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

（3）製造業

尾張北東部地区の2014年の製造品出荷額等は4兆2,029億円であり、県内シェアは9.6%となっています。産業中分類別の構成比を見ると、電気機械が21.1%、金属製品が11.0%、生産用機械が10.3%などとなっており、県全体と比較して、多様な業種構成となっています。

市町別に見ると、小牧市が1兆3,662億円で最も多く、次いで、春日井市が7,247億円、瀬戸市が4,503億円となっています。

■製造品出荷額等の産業中分類別構成比（2014年）



出典：経済産業省「工業統計調査」（2014年）

■市町別製造品出荷額等（2014年）

| | 製造品出荷額等（億円） | 従業者数（人） | 事業所数（事業所） |
|-------|-------------|---------|-----------|
| 愛知県 | 438,313 | 795,496 | 16,795 |
| 尾張北東部 | 42,029 | 121,677 | 2,864 |
| 瀬戸市 | 4,503 | 11,945 | 437 |
| 春日井市 | 7,247 | 24,279 | 693 |
| 犬山市 | 4,404 | 10,907 | 203 |
| 江南市 | 1,353 | 4,664 | 189 |
| 小牧市 | 13,662 | 34,269 | 615 |
| 尾張旭市 | 1,377 | 4,305 | 95 |
| 岩倉市 | 617 | 2,350 | 69 |
| 豊明市 | 1,673 | 5,647 | 156 |
| 日進市 | 1,029 | 3,997 | 88 |
| 長久手市 | 245 | 1,270 | 24 |
| 東郷町 | 1,389 | 4,163 | 115 |
| 大口町 | 4,203 | 12,283 | 111 |
| 扶桑町 | 328 | 1,598 | 69 |

出典：経済産業省「工業統計調査」（2014年）

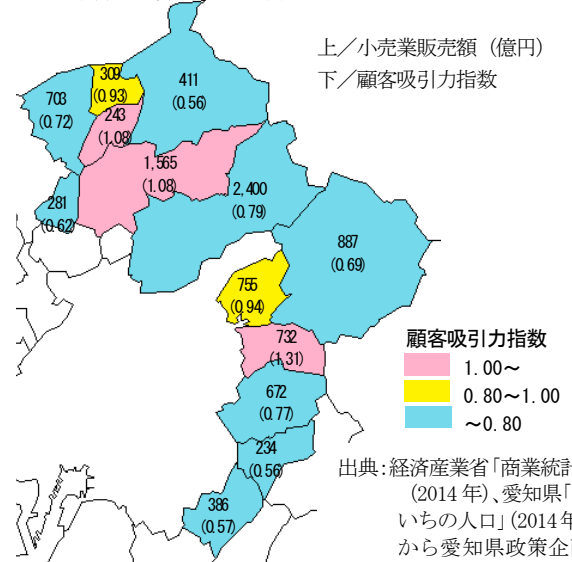
（4）商業

尾張北東部地区の2014年の小売業販売額は9,577億円であり、県内シェアは13.1%となっています。また、顧客吸引力指数*は0.81となっています。

市町別に見ると、小売業販売額は、春日井市が2,400億円、次いで小牧市が1,565億円と多くなっています。また、顧客吸引力指数は、長久手市（1.31）、小牧市（1.08）、大口町（1.08）が、1.00を超えています。

※顧客吸引力指数：各市町村の人口1人あたりの小売業販売額を県の1人あたりの小売業販売額で除したものの、指数が1.00以上の場合は、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していると見ることができます。

■小売業販売額（2014年）



上／小売業販売額（億円）
下／顧客吸引力指数

顧客吸引力指数
 1.00～
 0.80～1.00
 ～0.80

出典：経済産業省「商業統計」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

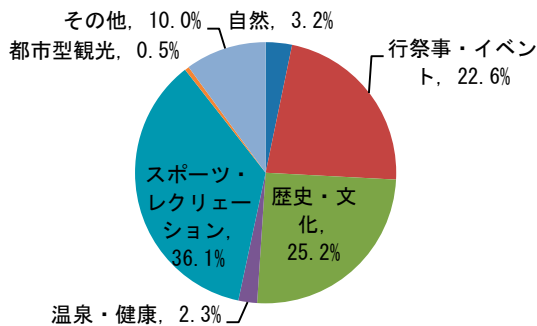
7 観光

尾張北東部地区の2014年の観光資源利用者数を区分別に見ると、「スポーツ・レクリエーション」が36.1%で最も割合が多く、次いで「歴史・文化」が25.2%、「行祭事・イベント」が22.6%となっています。利用者数上位の観光資源は、成田山名古屋別院（年間1,659,600人；犬山市）、愛・地球博記念公園（年間1,586,500人；長久手市）、中京競馬場（年間1,181,314人；豊明市）などとなっています。

また、当地区は、国宝犬山城をはじめとする歴史遺産や町並み、明治村などの特色あるテーマパーク、日本六古窯の一つである瀬戸焼などの産業観光資源なども有しています。

■観光レクリエーション利用者統計（2014年）

＜施設等区分※別利用者数の割合＞



※観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」と同様の区分

＜観光資源(利用者数上位10位)＞

| | 観光資源名 | 市町村 | 利用者数 (人) |
|----|------------------------------|------|-------------|
| 1 | 成田山名古屋別院 | 犬山市 | 1,659,600 |
| 2 | 愛・地球博記念公園 | 長久手市 | 1,586,500 |
| 3 | 中京競馬場 | 豊明市 | 1,181,314 |
| 4 | 国営木曾三川公園フラワーパーク江南 | 江南市 | 953,451 |
| 5 | 愛知県森林公園 | 尾張旭市 | 876,390 |
| 6 | 田縣神社 | 小牧市 | 730,000 |
| 7 | 道の駅 瀬戸しなの | 瀬戸市 | 633,700 |
| 8 | 日本モーターパーク(旧までは日本モーターセンターを称す) | 犬山市 | 565,374 |
| 9 | 大縣神社 | 犬山市 | 535,000 |
| 10 | 犬山城 | 犬山市 | 515,111 |

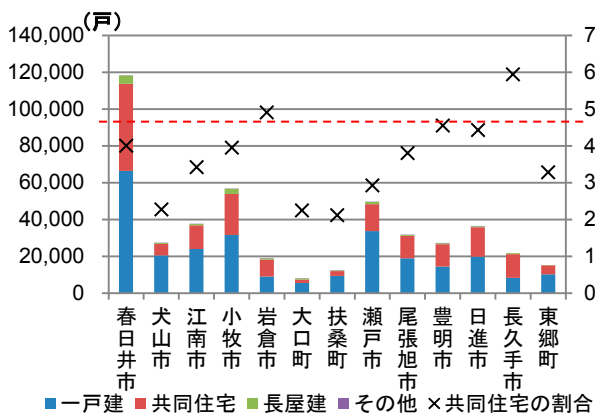
出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計」（2014年）

8 住宅

尾張北東部地区の2013年の住宅総数を市町別に見ると、春日井市が118,420戸で最も多く、次いで、小牧市が56,630戸、瀬戸市が49,750戸となっています。また、共同住宅の住宅総数に占める割合は、長久手市（59.5%）、岩倉市（49.1%）で県平均（46.3%）を上回っています。

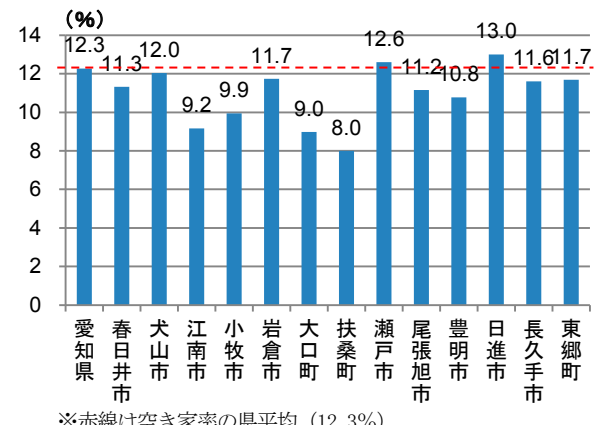
空き家率を見ると、日進市（13.0%）、瀬戸市（12.6%）では、県平均（12.3%）を上回っています。

■住宅総数（2013年）



※赤線は共同住宅の割合の県平均（46.3%）

■空き家率（2013年）



※赤線は空き家率の県平均（12.3%）

出典：総務省「住宅・土地統計調査」（2013年）

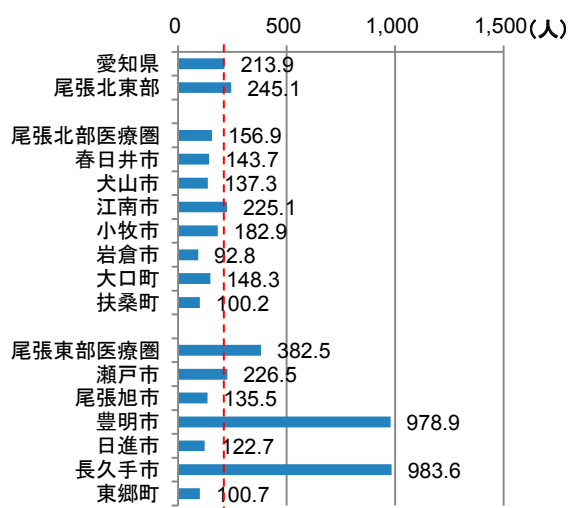
※住宅・土地統計調査では、人口15,000人未満の町村の調査結果が公表されていない。

9 医療・福祉

尾張北東部地区の2014年の人口10万人当たりの医師数は245.1人であり、県平均(213.9人)を上回っています。二次医療圏別に見ると、尾張北部医療圏156.9人、尾張東部医療圏382.5人であり、市町別に見ると、豊明市(978.9人)、長久手市(983.6人)で尾張東部医療圏の平均を大きく上回っています。

また、本県が2015年に実施した調査によると、医師不足による診療制限をしている病院の割合は16.3%となっています。二次医療圏別に見ると尾張北部医療圏は20.8%、尾張東部医療圏は10.5%となっており、県平均(22.4%)を下回っています。2007年の状況と比較すると、尾張北部医療圏は3.2ポイント低下、尾張東部医療圏は横ばいとなっています。

■人口10万人当たり医師数(2014年)



※赤線は県平均(213.9人/10万人)

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」(2014年)、愛知県「あいちの人口」(2014年)から愛知県政策企画局作成

■医師不足を原因とした診療制限を行っている県内病院の割合

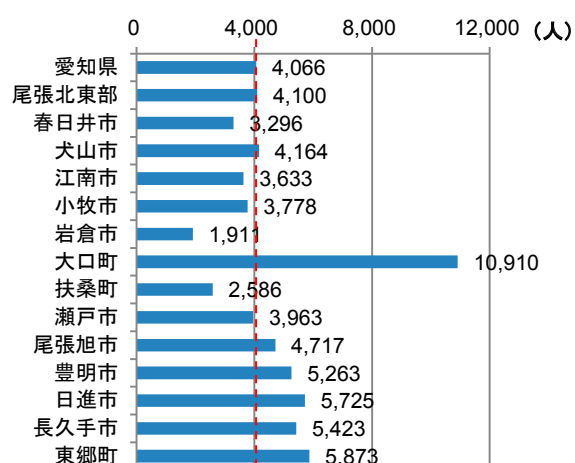
| | 2007年6月末 | | | 2015年6月末 | | |
|---------|----------|-------------|-----------|----------|-------------|-----------|
| | 病院数 | 診療制限している病院数 | 病院数に対する割合 | 病院数 | 診療制限している病院数 | 病院数に対する割合 |
| 愛知県 | 338 | 62 | 18.3% | 322 | 72 | 22.4% |
| 尾張北東部 | 44 | 8 | 18.2% | 43 | 7 | 16.3% |
| 尾張北部医療圏 | 25 | 6 | 24.0% | 24 | 5 | 20.8% |
| 尾張東部医療圏 | 19 | 2 | 10.5% | 19 | 2 | 10.5% |

出典：愛知県「県内病院における医師不足の影響に関する調査結果」

高齢者向け施設について、2014年の65歳以上人口10万人当たりの定員数は4,100人と、県平均(4,066人)を上回っています。市町別に見ると、大口町、東郷町などが県平均を大きく上回る一方、岩倉市、扶桑町では大きく下回っています。

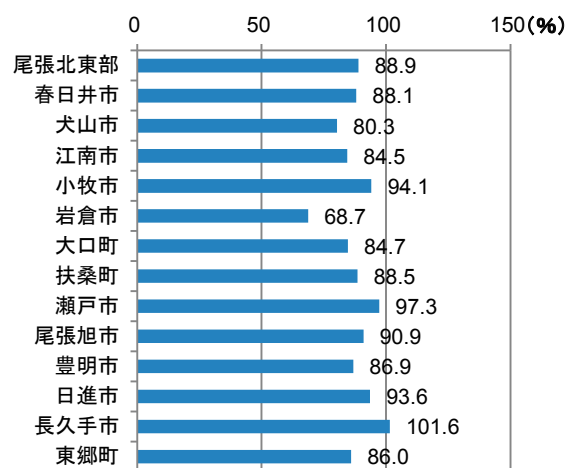
また、2014年の保育所の定員充足率(利用児童数÷定員)は88.9%であり、市町別に見ると、長久手市で101.6%と、100%を上回っています。

■高齢者向け施設定員数（65歳以上人口10万人当たり）（2014年）



※赤線は県平均（4,066人/10万人）

■保育所充足率（2014年）



出典：厚生労働省「社会福祉施設等調査」（2014年）、「介護サービス施設・事業所調査」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

※高齢者向け施設定員数：養護老人ホーム（一般）、（盲）、軽費老人ホーム（A型）、（B型）、（ケアハウス）、有料老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の定員数

【尾張北東部地区における県の主な取組】

当地区は、名古屋近郊の緑豊かな丘陵地等に住宅地が形成されており、そうした人口増加に対応したまちづくりの支援をはじめ、大学や研究機関が多く集積する本県を代表する学術研究開発ゾーンであることを生かした研究開発機能の強化や次世代産業の振興、更には地域独自の魅力の創造・発信などに取り組んでいます。

（学術研究開発機能の強化・次世代産業の振興）

「あいち産業科学技術総合センター」や「あいちシンクロトロン光センター」からなる「知の拠点あいち」では、企業の製品開発や生産現場の課題解決のために、高度な計測分析機器や最先端のシンクロトロン光利用施設を用いて試験・分析などを行っているほか、産学行政の連携による重点研究プロジェクトを実施しています。更に、2015年度には、中部国際空港に隣接する中部臨空都市から新エネルギー実証研究エリアを移転し、引き続き、実証研究フィールドを企業等に提供するとともに、拠点内の研究開発や分析評価支援機能と一体的に運用することにより、取組の更なる強化を図っていくこととしています。

また、航空宇宙産業については、「アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の支援措置の活用とともに、春日井市、犬山市、小牧市、大口町において、工場立地法に基づく条例により、工場立地に係る緑地規制の緩和措置を図るなどの取組が行われており、更なる企業集積や航空機生産機能の拡大・強化に取り組んでいます。

更に、愛知県立大学では、多言語学習センター（iCoToBa）や留学生制度等の活用によるグローバル人材の育成、愛知県立芸術大学では教育研究の充実化に向けた新デザイン棟の整備などを進めています。



「知の拠点あいち」の「あいちシンクロトン光センター」



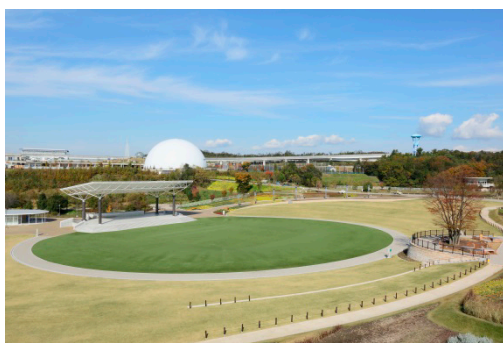
愛知県立大学の多言語学習センター（iGoToBa）

（地域の魅力の創造・発信）

国宝犬山城をはじめとした歴史文化や、地場産業の陶磁文化、更には、愛・地球博記念公園等の文化・レクリエーション施設など、地域の多様な魅力の創造・発信に取り組んでいます。

愛・地球博記念公園では、2015年9月に大芝生広場の野外ステージがオープンしたほか、デイキャンプ場等の整備を進めています。また、様々なイベントを開催するなど、広域的な交流・賑わいの場としての利活用を図っています。2015年9月から11月にかけては、愛知万博から10周年を記念し、同公園をメイン会場として、「全国都市緑化あいちフェア」を開催し、目標の100万人を超える321万人の来場者を集めました。

このほか、リニモ沿線地域においては、ポップカルチャーを活用した「愛知ぽぷかる聖地化計画」による賑わいの創出や、愛知県陶磁美術館における企画展の開催等を通じた伝統ある愛知の陶磁文化の発信を図っています。



愛・地球博記念公園の大芝生広場の野外ステージ



「愛知ぽぷかる聖地化計画のキャラクター」

（高齢者・障害のある人の生活・教育環境の整備）

高度成長期に大規模な住宅団地として開発された高蔵寺ニュータウンでは、高齢化率が40%を超える地区があるなど、高齢化が進んでいることから、2015年度から、新たな地域包括ケアの取組の検討を進めています。

また、1968年に春日井市内に設置された、心身の発達に障害のある人のための総合的な

福祉施設である「心身障害者コロニー」を改築・再編し、発達障害を含む障害者医療の拠点となる「医療療育総合センター」（仮称）の整備を進めているほか、春日台特別支援学校の過大化解消に向け、2019年4月の開校をめざし、瀬戸市南山口町での新たな特別支援学校の整備を進めています。



「医療療育総合センター」（仮称） イメージ図

（産業や暮らしを支える基盤整備）

当地区の東部地域を中心に、当面、人口増加が見込まれる中、リニモ沿線地域において、2015年度に策定した「リニモ沿線地域づくり重点プラン2016-2020」に基づき、自然環境の保全に配慮した集約的なまちづくりに取り組んでいるほか、東郷町セントラル開発や日進赤池箕ノ手土地区画整理事業などを進めています。

また、地域内交通の円滑化に向け、都市計画道路の名古屋岡崎線や名古屋江南線、北尾張中央道、瀬戸大府東海線などの整備を進めるとともに、地域の主要渋滞箇所の緩和・解消を進めるため、国道41号の6車線化、国道155号布袋拡幅などの整備を進めています。

更に、庄内川水系などの県管理河川のハード対策・ソフト対策を組み合わせた浸水対策を進めるとともに、新川流域では、市町などと連携した総合治水対策を推進しています。



東郷町セントラル開発
（商業施設ゾーンのイメージ図）



国道155号布袋拡幅
国道155号と名鉄犬山線交差点イメージ図